

在り方生き方に関する教育と言葉による生徒指導

## 在り方生き方に関する教育と言葉による生徒指導

Teaching About How to Live and Guiding Students Using Words

岩崎 功

Isao IWASAKI

(平成26年10月7日受理)

本学の卒業生が高等学校の教師になったとき、生徒指導の一助となるように、学習指導要領、生きる力等についての概要をまとめ、在り方生き方教育の成果である高校生の「大切な言葉」に関する調査を行った。教師になると教科指導、生徒指導、校務分掌等の実務に追われて、学習指導要領などの理論の研修には中々手が回らない。ここで示した学習指導要領とその理念等についての内容は、教師として身につけておいて欲しい最小限の教養である。また、在り方生き方教育で培われた生きる力を日常生活面で活かす援助が生徒指導の働きである。その指導の多くは言葉を介して行われるから、教師の言葉が生徒の心にどの程度届いたかが生徒指導の効果を左右する。生徒の心に残っている「大切な言葉」を、生徒指導を含めた在り方生き方教育の成果の一つと考え、その実態を把握するため本学の学生を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、「大切な言葉」を知った場が、「学校」という割合は56%、「家族」は約30%であった。すなわち2分の1を超える学生が「学校」から、30%が「家族」から教えてもらったことになる。「家族」も無視できない比率を示しており、学校外の教育の場面と学校が連携・協力していくことの重要性が垣間みえる結果でもある。

### 1. はじめに

本稿は、本学の卒業生が高等学校の教師になったとき、生徒指導の際の一助となるように、学習指導要領、生きる力、在り方生き方に関する教育等についての概要や、高校生のもつ言葉の実態などについてまとめたものである。その実態把握のため、本学の学生を通して、中・高生時代にどんな言葉と、どこで出会い、どんなときその言葉が力となっているのかアンケート調査した。

教職課程の「生徒指導」の授業で気になっていることがある。テキストに従って授業を受けて半期を終了すれば、受講生の生徒指導に関する知識はかなり身につく。定期試験でも理論的な知識に関する面では相当良い成績をとる。しかし、教員になって生きた生徒を目の前にしたとき、それらの理論的な知識をどの程度実際の生徒指導に活かすことができるのだろうか。理論の裏付けなしでは独善的な指導になるから理論的知識の学習は不可欠であるが、生徒指導の現実的な能力はOJTによる力量形成の面が強い。反抗心旺盛な生徒を納得させて自覚に導くための現実的な力である。腕に自信のある教師に頼りがちな時代もあったが、今はすべての教師が行う説得と納得の生徒指導である。

昔先生に叱られた時のこと、先生の怒りの表情や教訓的な一言を思い浮かべる人は多い。

「馬鹿野郎！」の一喝で目を覚ますこともあれば、「人間万事塞翁が馬というだろう。…」と愛情のこもった優しい一言に癒された人もいよう。生徒を個別指導する時、生徒指導の上手い教師にはその「場」の雰囲気を読み、その「場」に相応しい一言を投げかける人が多い。教諭するために時間をかけた説明も必要であるが、経験に裏打ちされた「最適な一言」、それが生徒指導における有力な道具となる。ただし、それには当該教師が生徒から相当な信頼を得ていることが前提条件ではある。問題行動への対応だけが生徒指導ではないが、集団指導の場合も含め、教師の発する言葉は重大である。そこでこのような言葉が、周囲の人達からのアドバイスも含め、高校生の心にどれだけ「大切な言葉」として残っているのか調べることにした。

いいかえれば、本学の学生たちが、高等学校時代までに受けた在り方生き方に関する教育（小・中学校では道徳教育）を通して、小・中・高等学校の学習指導要領の理念である生きる力を、どのように身につけ、また、どの程度身につけているかを「大切な言葉」をてがかりに検討したものである。

## 2. 生きる力の育成、在り方生き方に関する教育の目指すもの

生きる力という言葉は、日本語としてもごく普通に日常よく使われるものであるが、以下、本稿では、学習指導要領の理念を表す用語として用いる。文部科学省は、ホームページの中で、『『生きる力』＝知・徳・体のバランスのとれた力』<sup>(1)</sup>と説明している。

### (1) 学習指導要領にみる「生きる力」

学習指導要領とは、学校における教育課程<sup>(2)</sup>を編成するときの基準となるもので、文部科学大臣によって告示される。文部科学省では、「全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省では、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準を定めています。これを『学習指導要領』といいます。』<sup>(3)</sup>と説明している。学習指導要領によって、日本の初等中等教育における教育の機会均等が保障され、適切な教育内容が確保され、教育水準の維持向上が図られている。学習指導要領の内容は、高等学校の場合、総則、各教科、総合的な学習の時間、特別活動となっていて、教科書や学校の授業時間割もこれに基づいて作られている。授業の元締めの存在である。

なお、学習指導要領は、戦後試案として作られたが、現在のような大臣告示の形になったのは、昭和33年の改訂のときからであり、それ以来、ほぼ10年ごとに改訂されてきている。現行の学習指導要領は、平成21年3月改訂され、平成25年度から施行されている。（移行措置により、一部前倒し実施の特例がある。）

生きる力が学習指導要領に登場したのは、平成11年3月の改訂のときである。その直前の平成8年7月の中央教育審議会<sup>(4)</sup>第一次答申<sup>(5)</sup>は、生きる力について次のように述べている。

我々はこれからの子供たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や

感動する心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を「生きる力」と称することとし、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要であると考えた。

この答申を受けた平成11年3月の改訂で、高等学校学習指導要領（以下、学習指導要領という。）に初めて「生きる力」という言葉が登場し、その育成が学習指導要領の理念となった。（小・中学校の学習指導要領も同様の理念である。）平成21年3月改訂の現行学習指導要領においても、「今回の改訂においては、生きる力という理念は、知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから、これを継承し、生きる力を支える確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた育成を重視している。」<sup>(6)</sup> と、この理念は引き継がれている。文部科学省によれば、確かな学力とは「基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力」、豊かな心（豊かな人間性）とは「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する人間性」を表し、健やかな体（健康・体力）とは「たくましく生きるための健康や体力」<sup>(1)</sup> のことである。

## (2) 在り方生き方に関する教育

「在り方生き方」という言葉は学習指導要領のキーワードの一つであり、高等学校教育においては生きる力を支える豊かな心を育成するための道德教育を示している。この言葉が登場したのは、平成元年3月改訂の学習指導要領であり、総則第1款2に次のように記されている。

学校における道德教育は、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通して行うことにより、その充実を図るものとし、各教科に関する科目及び特別活動のそれぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならない。（下線は筆者）

なお、現行の学習指導要領でも、「特別活動」の文言が「総合的学習の時間及び特別活動」へと変わってはいるが、これと同様な文章が総則第1款2にある。

人間としての在り方生き方に関する教育（以下、「在り方生き方教育」という。）は、道德教育の柱として、高等学校では公民科や特別活動のホームルーム活動を中心に行われている。小・中学校では道德の時間の設置が学習指導要領上義務づけられているが、高等学校には設けられてない。そのため高等学校では学校の教育活動全体を通じて、在り方生き方教育として道德教育が行われている。在り方生き方教育の具体的内容は、小・中学校の道德の内容のように学習指導要領上示されていないが、中央教育審議会答申<sup>(7)</sup>では、最低限の規範意識、人間関係、生き方、法やルール、生活習慣、マナーなどが挙げられている。

### 3. 学生の「大切な言葉」の調査からみたり方生き方教育の成果

#### (1) 学生の「大切な言葉」を手がかりとした調査

本稿では、生きる力を支える3つの柱、「確かな知性」、「豊かな心」、「健やかな体」のうちの「豊かな心」の部分、つまり在り方生き方教育、の評価について、言葉との関連性を調査した。

道徳教育は、幼稚園、小・中学校のそれぞれ学校段階ごとにその重点が明示され、一貫して取り組まれている。中学校の場合には、「道徳の時間においては、思春期の特徴を考慮し、社会とのかかわりを踏まえ、人間としての生き方や社会とのかかわりを見つめさせる指導を充実する観点から、道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方について自覚を深める指導を重視する。その際、法やきまり、社会とのかかわりなどに目を向ける、人物から生き方や人生訓を学んだり自分のテーマもって考え討論したりするなど、多様な学習を促進する。」<sup>(8)</sup> ことになっていて、人生訓の学習も含まれている。巻末の資料2は、学習指導要領で示されている小学校と中学校の道徳教育の内容である。

在り方生き方教育の成果はもちろん目に見えるものではないが、一定の効果があるならば何らかの形で生徒の体（頭脳、心）中に、証として残っているはずである。その証の一つが、ふとした拍子に口をついて出る諺や格言など、人生の役に立つ言葉にあるのではないかと考えた。人は一言で甦ることもある。上司や先輩のアドバイスや両親の叱責・激励から勇気を得たり、慰められたりしたことは誰もが経験している。中・高校生や大学生も大人に比べて社会的経験は少ないけれども、学校生活でも相応の苦労があるだろうから、激励や慰めの一言のありがたみを感じているはずである。また、人は言葉で物事を考える。むしろ考えるための唯一の手段が言葉であるともいえる。身につけている語彙が多ければそれだけ深く多様な考え方ができ、生きる知恵の豊かさにもつながるだろう。心に残る人生に役に立つ言葉は、在り方生き方教育の成果の一つであるといえる。このようなことから、人生訓の学習や在り方生き方教育の成果として、学生の「大切な言葉」との関係を調査した。

#### (2) 調査の概要

本学の学生を対象に、「皆さんが大切にしている言葉」についてのアンケート調査を行った。アンケート用紙では「『皆さんが大切にしている言葉』とは、皆さんが好きな『ことわざや格言』、『身近な人が口癖にしている、皆さんもいいなとかなるほどと思っている言葉』など、皆さんが生きていく上で何らかの影響を与えてくれる、言葉とします。」と定義した。（すでに使っているが、「皆さんが大切にしている言葉」を「大切な言葉」という。）

アンケートの内容は、資料1に示すように「1 皆さんが大切にしている言葉」、「2 その言葉は誰のものか、誰に教えてもらったのか、どこで知ったか」、「3 その言葉はどんなとき（場面）であなたにとって力になっているか」の3項目である。学生がどんな言葉を生きる指針とし、それをどこで身に付け、どんな場面でそれを生きる上での力としているのか調査した。その言葉が「ふとした拍子に口をついて出る言葉」であることを示すため、アンケート記入時には直感的に短時間で答えるように指示した。

回答した学生は、教職課程に在籍する学生と一般学生を含めた125人である。

資料 1

「言葉」に関するアンケート調査

平成 26 年 7 月

「皆さんが大切にしている言葉」とは、皆さんが好きな「ことわざや格言」、「身近な人が口癖にしている、皆さんもいいなとかなるほど思っている言葉」など、皆さんが生きていく上で何らかの影響を与えてくれる言葉、とします。

1 「皆さんが大切にしている言葉」を書いてください。(1つ以上)

① .....

② .....

2 1で書いた言葉は、誰の言葉か、誰に教えてもらいましたか、あるいは何で知りましたか。(いくつ〇をつけてもかまいません。)

ア 父親            イ 母親            ウ 祖父・祖母            エ おじ・おば

オ 兄弟・姉妹            カ 友人 ( 小、中、高 )

キ 学校の先生 ⇒

a 小学校

b 中学校

c 高校

d HR担任

e 部活動の顧問

f その他 (            )

ク 学校の授業 ⇒ ( 小、中、高 ) 学校の (            ) の授業

ケ 書名または作家名 (            )

コ その他 (            )

3 1で答えた言葉は、どんなとき(場面で)あなたにとって力になっていますか。

.....  
.....

(            ) 年生            性別   1 男            2 女

巻末の資料3は、アンケート項目1「大切な言葉」とアンケート項目3「それが力になっている場面」の一覧をアンケート番号順に表にしたものである。(アンケート番号は整理の都合上つけたもの。) アンケートに答えた125人の学生すべてが項目1の「大切な言葉」に回答した。また、よく知られた諺や格言を回答したものが45人あり、全体のちょうど36%に当たる。3人1人以上が諺や格言を挙げていることになる。

### (3) 考察

アンケート結果を考察するために、資料として次の2つの表と巻末の資料3を作成した。

① 表1「大切な言葉」の分類(基準は中学校の道徳の内容、巻末の資料2による。)

② 表2「大切な言葉」の分類と「その言葉と出会った人または場所」との関係

#### ① 最多は「高い目標、やり抜く強い意志」(表1について)

表1は、「大切な言葉」を、中学校学習指導要領に示された4つの道徳の内容を基準として分類したものである。諺、格言の分類には、定式化された方法はない。高等学校の在り方生き方教育については、小・中学校の道徳教育のように具体的内容が示されていないので、中学校の道徳の内容を分類の基準とした。小・中学校における道徳の内容の学年段階・学校段階の一覧表を巻末の資料2に掲げた。

「大切な言葉」を、

- 1「主として自分自身に関すること」、
- 2「主として他人とのかかわりに関すること」、
- 3「主として自然や崇高なものとかかわりに関すること」、
- 4「主として集団や社会とかかわりに関すること」

の4つの大区分とそれぞれの小区分に分類した。(以下、場合によっては「主として自分自身に関すること」を大区分1と表す。) 小区分のうちのそれぞれ最後のその他は、筆者が加えたものである。

大区分の分類結果は次の通りである。

1「主として自分自身に関すること」	68.8%
2「主として他人とのかかわりに関すること」	24.0%
3「主として自然や崇高なものとかかわりに関すること」	1.6%
4「主として集団や社会とかかわりに関すること」	5.6%

4つの大区分は、内容の差が明確であるから、「大切な言葉」をこの4つに分類することは難しくはなかった。ほぼ7割が大区分1の「自分自身」に関する言葉であった。これに、大区分2の「他人とのかかわり」に関するもの24.0%、と合わせると、9割を超える学生が、自分と他人とのかかわり、つまり自分を含めた人間関係に関する言葉を挙げている。

小区分への分類は、複数の小区分に該当することが考えられ分類に迷う場合もあったが、数字の処理上「大切な言葉」一つを一つの小区分に当てはめた。例えば、「少年よ大志を抱け」は、1-(2)(大区分1、小区分(2)を表す。以下同じ。)、1-(4)、1-(5)のいずれにも分類可能である。ここでは、「理想に向かって挑戦しなさい。それが自分の人生を切り拓いていくことにつながる」と解釈し、下線部が1-(4)の文言と一致しているから、1-(4)に分類した。「笑う門には福来る」について、岩波ことわざ辞典は「苦難な状況にあって



表1「大切な言葉」の分類（中学校の「道徳の内容」を基準とした。）

大区分	小区分	内 容	人数	小区分率	大区分率
1 主として自分自身に関すること	(1)	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。	3	3.5	
	(2)	より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。	45	52.3	
	(3)	自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。	1	1.2	
	(4)	真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。	2	2.3	68.8
	(5)	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	13	15.1	
	(6)	その他	22	25.6	
		計	86	100.0	
2 主として他人とのかわりに関すること	(1)	礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。	6	20.0	
	(2)	温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりのある心をもつ。	6	20.0	
	(3)	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。	1	3.3	
	(4)	男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。		0.0	24.0
	(5)	それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に学ぶ。	1	3.3	
	(6)	多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることを感謝し、それにこたえる。	15	50.0	
	(7)	その他	1	3.3	
		計	30	100.0	
3 主として自然や崇高な・・・	(1)	生命の尊さを理解し、かけがえのない自己の生命を尊重する。		0.0	
	(2)	自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を超えたものに對する畏敬の念を深める。		0.0	
	(3)	人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること喜びを見いだすように努める。	1	50.0	1.6
	(4)	その他	1	50.0	
		計	2	100.0	
4 主として集団や社会のかわりに関すること	(1)	法やまじりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会秩序と規律を高めるように努力する。		0.0	
	(2)	公徳心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。	3	42.9	
	(3)	正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。	1	14.3	
	(4)	自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。		0.0	
	(5)	勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。		0.0	
	(6)	父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。		0.0	5.6
	(7)	学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に経営の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。		0.0	
	(8)	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に敬愛と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。		0.0	
	(9)	日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。		0.0	
	(10)	世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。	1	14.3	
	(11)	その他	2	28.6	
		計	7	100.0	
		合計	125		100.0

でも希望をもって頑張っていれば、幸せをもたらすことができること」と解説している。1-(1)、1-(5)のいずれかに該当する。「苦難な状況のときにも笑顔を忘れないように自己を見つめ、自己の向上を図る」という意味にくみ取って1-(5)とした。「果報は寝て待て」について、原意は、「幸福は人の力で手に入れられるものではないから、あせらず、時機を待つしかない。」である。「時機を待つ」を積極的に解釈すれば1-(2)、1-(5)と見なすことも可能である。しかし、アンケート項目3「どんなとき（場面で）あなたにとって力になっていますか」の記述から判断すると、積極的な解釈はできなかったため、1-(6)とした。1-(1)から1-(5)の文言の根底にはいずれも積極性があると考えて、積極性が感じられないものは1-(6)に分類した。

大区分1「主として自分自身に関すること」は86人であった。そのうち45人（大区分の中での比率は52.3%）の「大切な言葉」は小区分(2)「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。」に分類された。45人という数字は、全体125人の中では36%を示している。3人に1人以上が、自分に努力を促す言葉、或いは自己を激励する言葉を「大切な言葉」としている。比較する資料がないのでこの数字が大きい小さいかは判断することはできないが、本学の学生は、3分の1以上が自らに“努力”を促し、或いは自己を“激励”する言葉を持っている。

大区分2「主として他人にとかかわりに関すること」への該当する言葉を挙げた学生は30人であった。全体の中での比率は24.0%である。そのうち小区分(6)の感謝の言葉を挙げた学生が15人（大区分の中での比率は50%）で最多である。次に小区分(1)「礼儀」と(2)「思いやり」がそれぞれ6人ずつで続いている。大区分2の他人にとかかわりに関する「大切な言葉」の分類では、感謝、礼儀、思いやりの3つが主であることがわかる。ただ、小区分(3)の友情の関係の言葉が1人、(4)の男女の人格尊重に関する言葉が0人であった。大区分3は、(3)と(4)が一人ずつ計2人、大区分4については、(2)が3人、(3)が1人、(10)が1人、(11)2人の計7人であった。

## ②『家族』からの言葉が3割（表2について）

表2は、「大切な言葉」の分類と、アンケート項目2の「(その大切な言葉は)誰の言葉か、誰に教えてもらいましたか、あるいは何で知りましたか」との関係を集計したものである。項目2を「家族」、「友人」、「学校」、「書籍または作家とその他」（以下、「本・その他」という。）の4つにまとめた。ア父親、イ母親、ウ祖父母、エおじ・おば、オ兄弟姉妹を「家族」とし、同様にキとクを「学校」とし、「ケ、コ」を「本・その他」とした。この表の見方については、例えば、アンケート番号34の学生の「大切な言葉」は「継続は力なり」であり、その言葉を教えたのは父親、母親、高校の先生と答えている。「継続は力なり」は1-(2)に該当するから、この学生の言葉は、1-(2)の列の家族の欄と学校の欄の2つにカウントされている。つまり、複数回答となっている。「その言葉と出会った人また場所」の集計は、「家族」37人、「友人」21人、「学校」49人、「本・その他」38人となり、合計すると145人となるが、125人を分母とする比率でみると、それぞれ29.6%、16.8%、39.2%、30.4%となる。「友人」を「学校」に含めると、「大切な言葉」を知ったのが「学校」という割合は、56%になり、「家族」は約30%である。すなわち、2分の1を超える学生が「学校」から、30%が「家族」から教えてもらったことになる。「家族」からこのような言葉を教えてもらうのは、実際には「家庭」からが主と思われるが、そのような



[illegible]

145

学校外の教育の場面と学校が連携・協力していくことの重要性が垣間みえる結果でもある。

①と②の考察から、125人の学生の「大切な言葉」について明らかになった傾向は次の通りである。

ア 大区分1の「自分自身」に関する言葉を挙げたものが全体の7割に上った。その中で、最も多いものが1-(2)「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。」に該当する言葉であり、52.3%を占める。

イ 大区分2の「他人とのかかわり」に関する言葉を挙げたものが、全体の24%、4人に1人の割合となっている。その中でちょうど半数の学生が2-(6)「多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることを感謝し、それにこたえる。」に該当する言葉を挙げている。他人とのかかわりに関する言葉では感謝の言葉を挙げた学生が最も多い。

ウ 「その言葉と出会った人または場所」との関係では、多い方から「学校」、「本・その他」、「家族」、「友人」となっている。「家族」37人は全体の30%に当たる。「友人」を「学校」に含めると、70人となり、同様に全体の56%に当たり、半数を超える学生が「学校」で「大切な言葉」と出会っていることになる。

#### 4. おわりに

教職課程の授業のとき、私の話を聞いていたある学生が「それって、『天網恢恢疎にして…』って言うんじゃないの?」と、隣の学生に話かける小声が私にも届いた。私は聞き流しそうになったが、中々気の利いた言葉を知っているのだな、と感心すると同時に、このようにふとした拍子に自分を激励したり、抑制したりする言葉が口について出ることが生きる力につながるのではないかと感じた。悪事に手を染めようとする一瞬、一つの言葉で正気に戻る。我々の先達はこのようなことを数多く経験し、格言として後世に残した。知っていて活用すれば人生に役立つ、諺や格言とはこのようなものであろう。やや誇張して言えば、知っているか否かで人生が変わる可能性がある。したがって、人生に役立つ言葉を身につけることは、生きる力の育成にもつながっている。在り方生き方教育や中学校の道徳で人生訓を学ぶ理由もここにある。アンケートに協力してくれた125人の本学の学生も全員が「大切な言葉」を持っていた。その半数以上が「大切な言葉」と出会ったのは「学校」と回答している。在り方生き方教育の成果の一つと考えられる。諺、格言や名言が本当に役立つのは社会人になってからであるが、そのために大学時代に勉学に励み、更に自分の心に共鳴する「大切な言葉」と出会うことを願っている。

また、一方、在り方生き方教育は、主として生徒指導を通じて行われる。生徒指導のベテランは、生徒への話し方も接し方も老練である。その“技術”は一種の暗黙知といえる。そして、押しなべて言葉の使い方が巧みである。巧みという誤解される虞もあるが、もちろん、口先だけの「巧言令色」とは全く無縁の巧みさであり、誠実さに溢れ、生徒への愛情に裏付けられた説得力に富んだものである。教師を目指す教職課程の学生も、教科の学習指導力に加え、生徒指導力にも優れた教師になって欲しい。そのためには、生徒指導の理論ばかりの学習だけではなく、生徒の琴線に触れる「大切な言葉」を与えることができるように、言葉の勉強を生涯行っていくことも不可欠である。

## 資料 2

## 道徳の内容項目一覧表(文部科学省)

## 「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表資料

小学校第1学年及び第2学年		小学校第3学年及び第4学年	小学校第5学年及び第6学年	中学校
1. 主として自分自身に関すること	(1) 健康や安全に気を付け、物や遊具を大切にし、身の回りを整え、わかまをきるなど、規則正しい生活をすること。	(1) 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。	(1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。	(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛けることのある生活をする。
	(2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。	(2) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。	(2) より高い目標を立て、希望と意気をもつてくじけないで努力する。	(2) より高い目標を目指し、希望と意気をもつて着実にやり抜き強い意気をもつ。
	(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを選んで行う。	(3) 正しいと判断したことは、勇気をもつて行う。	(3) 自由を大切にし、自律的で責任のある行動をする。	(3) 自他の精神を磨き、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。
	(4) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。	(4) 過ちは素直に認め、正直に明るいうちで元気に生活する。	(4) 誠実に、明るいうちで楽しく生活する。	(4) 素直な姿勢し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。
		(5) 自分の特徴に気付かず、よい所を伸ばす。	(5) 素直な姿勢に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。	(5) 自分を見つめ、自己の向上を期するとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。
2. 主として他の人とのかかわりに関すること		(1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真んこをもって接する。	(1) 時と場合をわきまえて、礼儀正しく真んこをもって接する。	(1) 礼儀の意義を理解し、時と場合に応じた適切な言動をどうする。
	(2) 知らない人や高齢者など身近にいる人に遠かいて接し、親切にする。	(2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。	(2) だれに対しても思いやりのある心もち、相手の立場に立つて親切にする。	(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対して思いやりをもち、礼儀正しく接する。
	(3) 友達と仲よくし、助け合う。	(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。	(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。	(3) 友誼の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高めあう。
	(4) 日ごろ世帯になっっている人々に感謝する。	(4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。	(4) 謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすること。	(4) 男女は、互いに責任についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。
	(5) 自然や動物に親しみ、動植物に優しい心で接する。	(5) 自然の恵みを感じ取り、生命の尊さを大切にする。	(5) 自然の恵みを感じ取り、生命の尊さを大切にする。	(5) それぞれの個性や立場を尊重し、異なるものの見方や考え方があがあることを理解し、寛容の心をもつ態度で共に学ぶ。
3. 主として自然や崇高なものとかかわりに関すること		(1) 生きること喜び、生命を大切に保つ心をもつ。	(1) 生命のかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。	(6) 多くの人々の働きや支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにとこたえる。
	(2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。	(2) 自然の恵みを感じ取り、生命の尊さを大切にする。	(2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。	(6) 自然の恵みを感じ取り、生命の尊さを大切にする。
	(3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。	(3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。	(3) 美しいものに感動する心や人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもつ。	(7) 人間には弱さや過ちを克服する強さや気高さがあることを知って、人間として生きることに喜びを見いだすように努める。
4. 主として集団や社会とかかわりに関すること		(1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。	(1) 公徳をもつて約束やきまりを守り、自他の権利を大切にすること。	(1) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を人々と共有し、責任をもち、社会の秩序と規律を維持する。
	(2) 働くことよきを感じて、みんなのために働く。	(2) 働くことよきを感じて、みんなのために働く。	(2) だれに対しても差別をすることなく、公正、公平に、正義の実現に努める。	(2) 公徳心及び社会道徳の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。
	(3) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをし、家族の役に立つ喜びを知る。	(3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなと協力し合って楽しい家庭をつくる。	(3) 身近な集団に参画し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。	(3) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。
	(4) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学校や学校の生活を楽しくする。	(4) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなと協力し合って楽しい学校をつくる。	(4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公のために役に立つことをする。	(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
	(5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛をもつ。	(5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛をもつ。	(5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。	(5) 勤労の尊さや意気を理解し、奉仕の精神をもち、公共の福祉と社会の発展に努める。
			(6) 先生や学校の人々への敬意を深め、みんなと協力し合いよりよい校風をつくる。	(6) 父母、祖父母に敬意の念を深め、家族の一員としての自覚をもつて充実した家庭生活を築く。
			(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。	(7) 学校や学校の一人としての自覚をもつて、教師や学校の人々に敬意の念を深め、協力によりよい校風を樹立する。
	(6) 我が国の伝統と文化に親しみ、愛をもつ。	(6) 我が国の伝統と文化に親しみ、愛をもつ。	(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。	(8) 地域社会の一員としての自覚をもつて郷土を愛し、社会に貢献する。
				(8) 地域社会の一員としての自覚をもつて郷土を愛し、社会に貢献する。
				(9) 日本人としての自覚をもつて郷土を愛し、国家の発展に努める。
				(9) 日本人としての自覚をもつて郷土を愛し、国家の発展に努める。
				(10) 世界の平和と人類の幸福に貢献する。
				(10) 世界の平和と人類の幸福に貢献する。

文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領解説 道徳編 付録5』 pp.144-145より

資料 3 「大切な言葉」と「それが力となる場面」(アンケート項目の1、3)

番号	1	皆さんが大切にしている言葉	「3 1で答えた言葉は、どんなとき(場面で)あなたにとって力になっていますか」
1	チャンスは積極的に		くじけそうな時に
2	人のふりみでわがふりなおせ		いつなんどきも力になっている。
3	少年よ大志を抱け		自分が挫折した時にこの言葉を聞くと力になる。
4	急がば回れ。急いでは事を仕損ずる。		あわてていている時、落ちつかせたりするとき
5	自分を勉める。 初志貫徹		日常生活で挫折そうな時思い出す。
6	努力すること		何事も努力するようになった。
7	他人に合わせる必要はない		進路を考えた時、友人などに合わせないで自分なりにやってみようというとき
8	ありえないなんてありえない。努力は天才に勝る。		こんなふうにぶちあたったとき。何か始める時
9	ありがとう。どんなに時がたっても・・・		特に②は、悩んだら辛くなった時
10	ありがとう。いただきます／ごちそうさまでした		人に感謝を述べる時、自分の気持ちを表す時。メリハリ
11	ありがとう。ごめんなさい		率直に伝える。感謝と謝罪の言葉。人と人がつながりを保ち強めるために必要な言葉。
12	責任感を持つ		学友会で仕事をしる際に任された仕事をやりとげるために責任を感じながらやっています
13	焦るな落ち着け、落ち着けばできるのだから		つねに心に言い置きかせて緊張感をまぎらわせている。
14	ありがとう		言う時、言われた時両方とも、嬉しい気持ちになり前向きになれる。
15	人の痛みを知り、人を傷つけるな		感情のままになった時にも相手の事を考えられるようになる。
16	何の嫌なこともあった時は必ずワルトマリアが来てくれる。周りをジャガイモや落葉だと考えはいいよ。		大学内で人が多く出席する授業の中や、嫌な人がいる時など
17	継続は力なり		なかなか課題が終わらず大変なとき
18	大丈夫大丈夫。失敗は成功のもと		何か不安になってしまった時
19	努力は自分を裏切らない。		くじけたとき
20	今を楽しむ		つらいときや何もかも投げ出したくなったときにこの言葉を思い出すと、それでも今日1日1日を大切に精一杯生きようと思えるようになります。
21	人生の選択はやるかやらないかの2択。人は見えない所で努力をしている。		進路に迷う時
22	諦めることも大切		私は希望を達成したため、すべてをうまくやろうとする。1日1日、そうはいかない時もあり、そういったときに、この言葉を思い出すと「この辺でいい」とって、自分自身にセーブをかけることができる。
23	できるできないじゃなくてやるかやらないか。		悩んだとき
24	悲しみが消えるというなら喜びだっってそういうもの		落ち込んだ時や悲しい時
25	誠心誠意		人から頼まれたこと(仕事や作業)を雑に片付けようとしてしまっているときに思い出すようにしている。
26	継続は力なり。ちりもつもれば山となる。		①くじけそうな時 ②物事をはじめたばかりのとき
27	99%の努力と1%の才能		パスケットで努力しないで何とかなったと思つて
28	自分を勉めるのは自分だ。すべての出来事すべての人に感謝をし「ありがとう」と伝える。		自分自身が困っている時にとても力になっています。他人だけにたよらず自分の力を出し、壁を乗り越えろという意味。
29	ナイーザな人々、世界を美しくしてくれているのはそういう人だ。		普段そこにいることに特別感謝されない人々(だいたいすべての人)こそが世界をつくっているということに気づかされてはととする。
30	大学の学びは応用問題である		授業を受ける前
31	一人はみんなの為に、みんなは一人の為に		協力する時に力になっている。
32	あきらめたら終り！！人生ブランクはつきもの！！		力になっていていついづつでも苦しい時でも努力できる気持ちになれる。
33	継続は力なり		資格試験など自分のスキルを上げる場面で役に立つ
34	やらなければならない		何をやっても上手くいかない時にやらないよりは少しでもやめたほうがましという事がわかった。
35	俺たちはクールだったろ？金力で今を楽しめ、そして世界を広げろ。		①1人又は友人連とバカやった時など。「バカだけどクールだろ？」という感じに。②新しい生活が始まる時など。楽しい生活が始めるときなど。楽しい生活が始めるときなど。楽しい生活が始めるときなど。

37	ありがたい。ごめんなさい	
38	一生懸命。笑う門には福来る	ストレスなどを抱えてデモンションが下がった時に力になる。
39	自分は自分のものであって、自分に対して義務と責任がある。翁翁が馬	決断をしなければならぬ時①の言葉を基準にしている。
40	過去はふり返らない	物事に失敗してもよくよき次の事を考えられるようになった。
41	けじめをつける	自分がちゃんと一つ一つの区切りをつけながら、それぞれ行動している時。(家で)
42	無駄な努力はしない	部活でなやんだとき
43	捲土重来	挫折しそうになつたりしるときや試合などで負けた後
44	感謝の気持ち	いつも支えてくれている人達にいつも力をもらっているから感謝の気持ちを伝える事でその人達も力をもらってほしい。
45	切磋琢磨。歩み	悩みを抱えたり、人間関係に疲れた時に、力になってくれます。
46	意外となんとかなる	ミスしてしまつたとき
47	どこへ行つたかよりもそこで何をしたかが大事だ。	今、現在
48	ONとOFFの切り替えをしかりする。	動くときは動く、休むときは休むということが周りや意識できなかつたけれど、この言葉を聞いてからは切り替える意識がいくつになつた。
49	今日もいい日だ。	つらい事があつてもそれをのりこえる気持ち持っていれば心の支えになる。
50	やっとおいて無駄な勉強は一つもない。	自分で決められないと思った時
51	子どもの人生は自分で決める！親が決めるものじゃない。	自分からもう後と戻りができなくなつて前に進まなければいけないときに思い出す。
52	背水の陣。天衣無縫	色んな出来事に負けそうになつたり、くじけそうになつたりしたときに、あきらめると言われているように思う。
53	運命とは眠れる奴隷である。それを解き放つことが勝利である。	人に感謝する時
54	ありがたい。	あらゆる場面で、自分の行動を実行する時
55	至誠にして動かさざる者は未だこれ有らざるなり。志を立ててもって万事の源となす。	
56	ありがたい	いつも
57	果報は寝て待て	予想外のことが起こつて何をしたらいいか考える時や何をすべきか考える時
58	人のふり見て我がふり直せ。気付き、考え、行動す	しんどい時
59	誰かに必要とされるってことは誰かの希望になるってことでしょ	諦めようとしたとき等
60	気が済むまでやる	迷つたときや嫌になつたとき諦めようになつたとき、この言葉で決断する勇気をもつたり、もう一度頑張ろうと思つたりする。
61	一歩と後下駄の差がなくて大したことじゃないんだよ。ゴールすることとしないことの差にくらべると、・・・	何か挑戦するとき作品(課題)を制作するとき
62	失敗なくして成功はない。本物を知らなければ空想的な作品は作れない。	バイトの時
63	風林火山。人事を尽くして天命を待つ	あわててしまつたり急いでいるとき
64	急いでは事を仕損ずる	自分が目標を失つた時、目標が達成した時など。
65	少年上大志を抱け	
66	世に平穩のあらんことを	忍びにんまが絶対だが仲間を大切にしているということ、自分も仲間を大切にしようと思つた。
67	仲間を大切にしないやつはそれ以上のクズだ	朝のあいさつ
68	おはよう	感謝を伝える時
69	ありがたい	あきらめそうになつた時
70	仕事にもあきらめずに取り組みれば必ず報われる。	ラッキー
71	一石二鳥	
72	偉時間	諦めそうな時
73	諦めるな一度諦めたらそれが習慣となる。諦めたらそこで試合終了だよ	常に生活するにあたつて力になっている。
74	思考は現実化する。0から1への距離は一から千への距離より遠い	アクションをおこすときに一度止まつて考えるようになった。
75	男気。まづ考えよう	たのしくないときやつらいときにたのしめづらくなる。
76	人生楽しんでものがち	



77	負けるが勝ち	
78	すみません	リダは社員さんに怒っていた。そのあと社員さんは私に怒っていた。私も謝罪した。次の日社員さんはすみませんと言った。私は謝罪した。
79	勇往邁進	壁にぶつかったとき
80	無駄だと思った事が無駄	失敗した時
81	Thank you ! ありがとう	
82	なんとかなる	絶望的な時にでも頑張りたいとき
83	バレなきゃ犯罪じゃないんですよ	ネタとして
84	落ち着いて行動する。迷ったら立ち止まる。	電車を乗り換える際、番線を間違えないようにするために落ち着かせる
85	努力は必ず報われる	挫けそうになった時
86	いつも前向きに	
87	常在戦場	なにかに負けそうなとき
88	自分は自分	一人で何かしなければいけない時
89	継続は力なり	続けることが自信になっている。
90	あいさつは必ずする	人とのコミュニケーションをとるとき印象をよくする。
91	いそがない、あせらない、でもあきらめない	
92	あきらめない	勉強する時など何かに挑む時
93	直感	常に考えてます
94	人は常に夢の一步手前。昨日不可能だったことは今日可能になる。	何かにチャレンジする時
95	未来に絶望なんてするな。俺達はまだ何も成し遂げていないじゃないか。	何もかもが良くなった時
96	ちりもつもれば山となる	努力をつみかさねれば、それは大きな力になる事を入試でかんじた。
97	何も言えない。働かざるものくうべからず。	何もしていないとき
98	自分の考えで動け	答に迷ったとき
99	自分を輝かせるには努力しかない	目標を達成するため
100	一期一会	特になし
101	やると決めたら最後までやれ	バイトや課題など
102	百聞は一見にしかず	
103	ありがどう	小さいことでも人に感謝するとき
104	人間性について絶望してはいけません。なぜなら私たちは人間なのでから	辛い時
105	人生は退屈すれば良いが充実すれば短い	全部
106	人事を尽くして天命を待つ	何かを頑張るとき
107	努力に勝る天才なし	スポーツ
108	今日からやらなきゃ明日は無理だよ	勉強をしている時
109	覚悟	やらなければならない時
110	簡単なものほど大切にしろ。微積分は裏切らない。	大学レベルの資格やいろいろな場面で学力証明され信用を得ることができた。
111	覚悟とは自分で切り開いていくものだ。	物事をあきらめそうになったり、くじけそうになったりしたとき。
112	ありがどう	ひとのためになにかをした時に・・・
113	感謝の気持ち	感謝の気持ちを伝える事で相手もまた自分の事をしてくれてお互いいいきもちにな。
114	誠心誠意	頼まれることを適当に片付けようとしているときに思い出している。
115	笑う門には福来る。一生懸命	苦しい時
116	下ばかり見ていても上ばかり見ていてもあふない。前を見て歩こうよ。	前向きになる



117	努力しろ	運動 勉強
118	自分を鍛えろ。切磋琢磨	挫折しそうになった時
119	怠いでは事を仕損ずる	おちつきたいとき
120	A HAPPY DAY!! 隣人を自分のように愛しなさい。	日常生活で常に役立っています。人と接する時など
121	ピンチはチャンス。チャンスは積極的に	自分がピンチな状態にいる時
122	少年よ大志を抱け	自分が目標を達成した時に、また、考えさせられる言葉。
123	人のふり見てわがふりなおせ	毎日
124	人の振り見て我が振り直せ	他人で気に入らない所があった場合自分を見直せる。
125	周りに起きていることは自分が引き起こしている、それがわかりやすく表に出ている	変化が欲しい時

(注)

- (1) [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/idea/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/index.htm)
- (2) 教育課程とは、「学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。」\* つまり、その学校でどんな教科科目を学び、その科目の単位数やどの学年で学ぶかなどを決めている、学習内容を示すメニューである。学習指導要領に基づいて作成され、学級ごとの時間割作成の根拠となっている。教育課程は、縦方向に教科・科目名、横方向に学年を並べた教育課程表として学校要覧の中に掲載されている。  
\* 高等学校学習指導要領解説 総則編 平成21年11月 文部科学省 P8
- (3) [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/idea/1304372.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/1304372.htm)
- (4) 中央教育審議会  
文部科学省に設置される審議会である。法的には国家行政組織法第8条に設置根拠を求めることができ、中央教育審議会令及び文部科学省組織令で、文部科学省に中央教育審議会を置くことが定められている。その任務は、「文部大臣\*の諮問に応じて教育に関する基本的な制度その他教育、学術、又は文化に関する基本的な重要施策について調査審議し、及びこれらの事項に関して文部大臣に建議する。」\*\* ものである。  
学習指導要領との関連でいえば、文部科学大臣が中央教育審議会に学習指導要領の改訂について諮問をすると、中央教育審議会はそれに関して一定期間審議し、その結果を答申という形で文部科学大臣に提出する。それが中央教育審議会答申である。答申には必ず従わなければならないという法的根拠はないが、現実的にはそれを基に新しい学習指導要領が作られていく。現行の学習指導要領の理念となっている生きる力は、上述したように1996年7月の答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」で提案された理念である。  
\* 1996年当時の名称。現在は、文部科学大臣である。  
\*\* 「中央教育審議会について」（1996年7月中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」より）
- (5) 1996年7月中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」
- (6) 高等学校学習指導要領解説 総則編 平成21年11月 文部科学省 P3
- (7) 「(4)道徳教育の充実」（2008年1月中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」より）
- (8) 中学校学習指導要領解説 道徳編 平成20年9月 文部科学省 P6